

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	リエブラツクずは		
○保護者評価実施期間	R8年 4月 1日		～ R8年 4月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 6名
○従業者評価実施期間	R8年 4月 1日		～ R8年 4月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 2名
○訪問先施設評価実施期間	R8年 4月 1日		～ R8年 4月 20日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 4月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ST等の専門職が訪問を担うことで、集団生活における微細なニーズへの対応が可能です。同一法人内の児発・放デイとの併用により、一貫性のある包括的支援を提供しています。	訪問先の園や学校のカリキュラムを最優先に尊重し、現場の先生方と良好な協力関係を築きながら、環境調整や集団適応に向けた支援を円滑に展開しています。	支援の質を標準化するため、社内での定期的な振り返りや症例検討会を強化します。ロールプレイ等を通じ、より実践的で即効性のある助言力の向上に努めます。
2	訪問を通じて保護者様・訪問先・当事業所の三者間コミュニケーションが深化し、多角的な視点から児を支える**「安心のネットワーク」**が構築されている点が強みです。	訪問後の速やかなフィードバックを徹底し、園での様子を保護者様へ、事業所での様子を園の先生へ橋渡しすることで、支援のシナジー効果を高めています。	支援員の増員と並行し、事務機能のICT化や効率化を推進。チームとしての情報共有スピードを上げ、複数の視点で児を支える「チーム制訪問」の基盤を整えます。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援員が単独行動になりやすく、事業所内でのナレッジ共有やチームとしての組織的な連携が、物理的な時間制約により不足がちです。	人員体制の余裕が少なく、各支援員の知見が個々に蓄積される「属人化」が課題です。現場の声をリアルタイムで全体知に昇華させる仕組みが十分に整っていません。	訪問支援員を増員し、チームとしての連携を強化することが必要です。定期的なミーティングを設け、支援員間での情報共有を促進することで、支援の質を向上させていきます。
2	事業所内で訪問支援の振り返りや勉強会が実施できていないため、支援員のスキル向上の機会が不足しています。実践的な学びを深める場の確保が今後の課題となります。	「集団の中での個別の様子を客観的に評価してほしい」という保護者様の高度な期待に対し、対応できるスタッフの数や時間的リソースが追いついていない現状があります。	所内勉強会の定例化を最優先課題とし、事例発表や外部知見の導入を促進します。事務負担を軽減することで、支援員が「学びと振り返り」に集中できる環境を整備します。
3			